

# まいづるパート II

令和5年度 No.7 校長室だより

通算No.25 (R5. 6. 23)

霧島市立国分小学校長

## ☆ 本を読もう！「1日20分読書運動」について ☆

昔、県立図書館長を務めた「**椋鳩十**」先生が、昭和34年に「**母と子の20分間読書**」を提唱し、それを受けた県教委が「**親子20分間読書運動**」として昭和35年頃から取組を始めたところ、徐々に全県下、そして全国へと伝わり、鹿児島県は「**親子20分間読書**」の発祥の地として有名になっています。（県内ではさつま町の旧流水小学校が発祥）

当時、椋鳩十先生は、『**教科書以外の本を子どもが20分間くらい読むのを、母がかたわらに座って、静かに聞く**』形で、提唱されたようです。それが、徐々に「母と子」から「親子」へ、「座って聞くから」から「家事をしながらでも」と形が変わってきています。



また、集落（子ども会）単位でも音読に取り組もうということで、集落のスピーカーで子どもたちの本読みの声を流したり、集落の有線放送で音読したりするなど、様々な形で読書運動が続いてきました。

しかし、最近は時間に追われたり、ほかに楽しみ（テレビやゲームなど）が増えたりして、音読の声を聞くことが少なくなってきたような気がします。

そのような中、県教委では、現在、「**1日20分読書運動**」を推進しています。

この「**1日20分読書運動**」とは、全ての子どもが1日に少なくとも20分程度の時間を読書に親しみましようという運動であり、この運動を通して「**心に残る1冊の本**」と出会えることを目標としています。「**心に残る1冊の本との出会い**」は、心を豊かにするだけでなく、夢や人生の指針を与えてくれるきっかけにもなります。

私は高校時代にヨット部に所属していましたが、その一つ下の後輩に、後にヨットで世界一周を達成する「**今給黎教子**」がいました。彼女は、中学時代に読んだ「**太平洋ひとりぼっち**」（冒険家の堀江謙一著）や「**ダブ号の冒険**」等の本の影響を受けて、ヨット部のある高校に入学し、卒業後はさらに技術を磨き、**太平洋単独往復**や**無寄港世界一周**などを達成しています。まさに本との出会いが人生を大きく変えたことになりました。

さて、本校においては、今年重点共通実践事項の一つに「**親子20分読書**」を掲げ、親子の触れ合いを含めた形で読書活動を推進することにしています。ぜひ、家庭の団らんの中で、本を読む習慣が形成されることを願っています。

なお、県が考える発達段階別の「**心に残る1冊の本との出会い**」の目標は、次のとおりとなっています。

- ・ 乳幼児期「絵本や物語を読んでもらうことで出会おう」
- ・ **小学生期「多くの本を読み、読書の幅を広げることで出会おう」**
- ・ 中学生期「内容に共感・感動したり、将来を考えたりしながら読むことで出会おう」
- ・ 高校生期「知的興味に応じて一層幅広く読書をすることで出会おう」

良書と出会うことで、読書意欲が高まるとともに人生が豊かになります。ぜひ、ご家庭の協力もよろしくお願いいたします。

## ☆ 命を守る行動を！ ☆

新年度になってから、**交通教室**や**避難訓練**、**緊急引き渡し訓練**などを行ってきています。その際、いつも伝えているのが「**命を守る行動をとってほしい**」ということです。

事件や事故は、訓練と全く同じような状況で起こるとは限りません。登下校中や夜中に寝ている時間帯に起こるかもしれません。各家庭で、様々な状況を想定し、基本的な対応等を確認しておく必要があると思います。ぜひ、ご家庭でも話し合ってみてください。

※ 市内で**声かけ事案**も散発しています。家庭でも「**いかにおすし**」「**おかしもち**」などについて話題にしてください。



学校教育目標「胸を張って堂々と生きる」 青少年赤十字の目標「気づき・考え・実行する」